**全日本高等学校書道教育研究会　学習指導案（作成方法の例）**

**「　学習指導案　」**

**はじめに**

授業者所属・職・名前　　○○立○○高等学校・教諭・○○　○○

（日　時　　令和○年○月○日（○）　○．○時限）

（対　象　　第○学年○組　書道○選択者　○○名）

（科　目　　書道Ⅰ）

単元設定の理由

○○○（今回の授業を設定した理由等を記述）○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

学習指導要領との関連

○○○（学習指導要領に基づいて記述）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

育てたい資質・能力

○○○（スクール・ポリシーを起点としたカリキュラム・マネジメントを記述）○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

※ここに示したのは一例であり、各学校で適切に作成すること。四角囲いは便宜上で付けているので、必ずしも四角囲いで示す必要はない。

**１　単元名　「　　　　　　　　　　　　　」**（「　　　　　」単元〇）

（例）単元名「楷書の基本と結構法（孔子廟堂碑、九成宮禮泉銘）」（「漢字の書」単元①）

**２**　**本単元に関連する内容のまとまり**

（例）・「Ａ表現」（2）漢字の書　及び〔共通事項〕(1)

・「Ｂ鑑賞」（1）鑑賞　及び〔共通事項〕（1）

※ここでは複合的な単元を例に示したが、「Ａ表現」または「Ｂ鑑賞」のどちらか一方のみで単元を設定することも考えられる。

**３　芸術の目標と評価の観点及びその趣旨**　**【定型】このまま入れる。**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 目標 | （１） | （２） | (３) |
| 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに，意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。 | 創造的な表現を工夫したり，芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。 | 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い，豊かな情操を培う。 |

　　 （高等学校学習指導要領P.141）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 趣　旨 | ・書の表現の方法や形式，書表現の多様性について，書の創造的活動を通して理解を深めている。・書の伝統に基づき，作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け，表している。 | 書のよさや美しさを感受し，意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え，書の美を味わい深く捉えたりしている。 | 書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。 |

　　 （改善等通知　別紙５　P.3，4）

**４　書道Ⅰの目標と評価の観点及びその趣旨**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 目　標 | 知識及び技能 | 思考力，判断力，表現力等 | 学びに向かう力，人間性等 |
| 書の表現の方法や形式，多様性などについて幅広く理解するとともに，書写能力の向上を図り，書の伝統に基づき，効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 | 書のよさや美しさを感受し，意図に基づいて構想し表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え，書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 | 主体的に書の幅広い活動に取り組み，生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，書の伝統と文化に親しみ，書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 |

書道の幅広い活動を通して，書に関する見方・考え方を働かせ，生活の中の文字や書，書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のように育成することを目指す。

　　 （高等学校学習指要領P.157）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 趣旨 | ・書の表現の方法や形式，書表現の多様性について幅広く理解している。・書写能力を向上させるとともに，書の伝統に基づき，作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け，表している。 | 書のよさや美しさを感受し，意図に基づいて構想し表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え，書の美を味わい捉えたりしている。 | 主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。 |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」P.86を参考に作成

**５　単元構成**

　「　　　　」(　)「　　　　」　総時間数 　　時間

　（例）「Ａ表現」(2)「漢字の書」総時間数 32　時間

単元①：　　　　　　　　　　（　　　　　　　　）　全　時間

　（例）単元①：＜楷書＞書風と結構法（孔子廟堂碑、九成宮禮泉銘）全4時間【本単元】

単元②：　　　　　　　　　　（　　　　　　　　）　全　時間

　　　　単元③：　　　　　　　　　　（　　　　　　　　）　全　時間

　　　　単元④：　　　　　　　　　　（　　　　　　　　）　全　時間

　　　　　・

　　　　　・

　　　　　・

単元〇

※該当する内容のまとまり内のすべての単元について、概要がわかる程度の計画を記す。

**６　単元の目標**

**（１）「知識及び技能」**

**〇知識**

* ～について理解する。「Ａ表現」に関する内容
* ～について理解する。「Ｂ鑑賞」に関する内容

**〇技能**

* ための技能を身につける。「Ａ表現」に関する内容

※一つの単元の中で二つの古典を取り上げる場合などは、それぞれの技能について目標を設定することも可能。

**（２）「思考力,判断力,表現力等」**

　　・　　　　　　　　　　　　　　　～について構想し工夫する。「Ａ表現」に関する内容

　　・　　　　　　　　　　　　　　　～について味わって捉える。「Ｂ鑑賞」に関する内容

**（３）「学びに向かう力，人間性等」**

・　　～表現の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。「Ａ表現」に関する内容

* ～鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

「Ｂ鑑賞」に関する内容

※ここでは複合的な単元を例に示したため、「知識」、「思考力，判断力，表現力等」、「学びに向か力，人間性等」のそれぞれについて、「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」に関わる目標を示しているが、「知識」、「思考力，判断力，表現力等」、「学びに向かう力，人間性等」のすべての資質・能力について複合させるとは限らず、また、「Ａ表現」または「Ｂ鑑賞」のどちらか一方のみでの単元の場合は、「Ａ表現」または「Ｂ鑑賞」のいずれかで目標を設定する。

※「参考資料」では、一つの内容のまとまりをおよそ一つの単元で構成しているため、内容のまとまりにおける指導事項のすべてを網羅して単元の目標としているが、内容のまとまりを複数の単元で構成する場合には、それらの単元を合わせた全体で内容のまとまりの指導事項を目標として網羅できればよいので、単元の学習に関わる必要な指導事項を選択して単元の目標として設定すればよい。

**７　内容のまとまりごとの評価規準**

（例）「Ａ表現」(2)漢字の書 及び〔共通事項〕(1)と、「Ｂ鑑賞」(1)鑑賞 及び〔共通事項〕(1)

の複合的な単元の場合

「Ａ表現」(2)漢字の書　及び 〔共通事項〕(1)

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 〔共通事項〕・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。・書を構成する要素について，それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。・古典の線質，字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。 | ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆，字形，全体の構成について構想し工夫している。・意図に基づいた表現について構想し工夫している。 | 主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」P.87を参考に作成

「Ｂ鑑賞」(1)鑑賞 及び 〔共通事項〕(1)

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 〔共通事項〕・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。・書を構成する要素について，それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。・漢字の書体の変遷，仮名の成立等について理解している。・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。 | ・作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさを味わって捉えている。・生活や社会における書の効用について考え，書のよさや美しさを味わって捉えている。 | 主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」P.88を参考に作成

※ここでは複合的な単元を例にしているため、「Ａ表現」(2)漢字の書 及び〔共通事項〕(1)と、「Ｂ鑑賞」(1)鑑賞 及び〔共通事項〕(1)の両方を示している。

**８　単元の評価規準**

**（１）「知識・技能」**

**〇知識**

* ～について理解している。（知表）
* ～について理解している。（知鑑）

　　**〇技能**

* ～の技能を身に付けている。（技）

**（２）「思考・判断・表現」**

　　・　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　～について構想し工夫している。（思表）

　　・　　　　　　　　　　　～について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。（思鑑）

**（３）「主体的に学習に取り組む態度」**

・　　　　　　　　　　　　　　　～表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。（態表）

* ～鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。（態鑑）

※目標の文末を評価規準の形にする。ただし、「学びに向かう力，人間性等」の目標から「主体的に学習に取り組む態度」の観点での評価規準を作成する場合には注意が必要。（事例参照）

※「主体的に学習に取り組む態度」の観点での評価規準について、内容のまとまりごとの評価規準は、内容のまとまりの学習全体を広く捉えられるよう、やや漠然としたものでよいが、単元の評価規準は、単元での学習活動及び単元で育成を目指す資質・能力に適する形でより具体的に示すのが望ましい。

**９　単元の指導と評価の計画**

・年間授業時数･･･　□時間　・「漢字の書」･･･　□時間　・本単元の配当時数･･･□時間

**（１）―　①　指導と評価の計画（概要）**

**（複合的な単元の例）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  | 学習活動 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 知表 | 知鑑 | 技 | 思表 | 思鑑 | 態表 | 態鑑 |
| 単元□ | 　　　第　１　次（□時間） | 鑑賞 |  |  |  |  |  |  |  |
| 観点の確認 |  |  |  |  |  |  |  |
| 構想・工夫 |  |  |  |  |  |  |  |
| 作品制作 |  |  |  |  |  |  |  |
| 相互鑑賞・意見交換 |  |  |  |  |  |  |  |
| 構想・工夫の見直し |  |  |  |  |  |  |  |
| 作品制作 |  |  |  |  |  |  |  |
| 最終自己評価 |  |  |  |  |  |  |  |
| 学習のまとめ |  |  |  |  |  |  |  |
|  | ◎指導に生かす評価●記録に残す評価 |  |  |  |  |  |  |  |
| 　　　第　２　次（□時間） |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  | 矢印で評価の継続性を示す。◎ 指導に生かす評価● 記録に残す評価を配置する。（事例参照） |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
| 単元の学習のまとめ |  |  |  |  |  |  |  |
|  | ◎指導に生かす評価●記録に残す評価 |  |  |  |  |  |  |  |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」P.58を参考に作成

※「９　単元の指導と評価の計画」は「（１）指導と評価の計画（概要）」「（２）単元における観点別学習状況の評価方法」「（３）観点ごとの実現状況等を見取る方法（評価対象と学習活動）」「（４）本時の学習展開」からなるが、（１）、（２）、（３）は、それぞれ（４）の内容と呼応しており、評価方法や支援の内容、評価対象と学習活動と評価規準の記号、◎●の場所を一致させる等、確認が必要である。

**（１）―　②　指導と評価の計画（概要）**

**（「Ａ表現」または「Ｂ鑑賞」のみでの単元例（ここでは「Ｂ鑑賞」の例））**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  | 学習活動 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 知鑑 | 思鑑 | 態鑑 |
| 単元□ | 　　　第　１　次（□時間） |  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  | ◎指導に生かす評価●記録に残す評価 |  |  |  |
| 　　　第　２　次（□時間） |  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  | ◎指導に生かす評価●記録に残す評価 |  |  |  |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」P.58を参考に作成

※①は複合的な単元を例に示したため、「知識」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」のそれぞれについて、「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」に関わる評価規準を示しているが、「Ａ表現」または「Ｂ鑑賞」のどちらか一方のみでの単元の場合は、上記の例の通りとなる。②に、「Ａ表現」または「Ｂ鑑賞」のみでの単元例（ここでは「Ｂ鑑賞」の例）を示した。「参考資料」の例を誤解しないように、注意が必要。

※ここでは単元を第２次で構成する場合の例を示したが、何次で構成していても、一つの単元において記録に残す評価を行う場面の数は、単元の評価規準１つにつき１回、つまり単元の評価規準の数と記録に残す評価の場面の数は一致することになる。

各県等の様式に従って作成

**（２）****―①単元における観点別学習状況の評価方法**

**（複合的な単元の例）**

|  |  |
| --- | --- |
| 評価の観点と単元の評価規準 | ○「おおむね満足である」状況（Ｂ）の例◎「十分満足できる」状況（Ａ）の例　🔹「努力を要する」状況（Ｃ）と判断される生徒への手立て |
| 知識・技能 | 知表 | 評価規準を記入 | 〇（知表の評価規準）について、おおむね理解している。◎（知表の評価規準）について、（●●する活動を通して　例：構想・工夫したり言語化したりする活動を通して）実感的（または十分）に理解している。🔹（知表の評価規準）について、（●●を活用して　例：ＩＣＴ）、（●●する。例：具体例を示す　振り返らせる）などして実感的に理解できるよう支援する。 |
| 知鑑 | 評価規準を記入 | 〇（知鑑の評価規準）ついて、おおむね理解している。◎（知鑑の評価規準）について、（●●する活動を通して　例：相互鑑賞・意見交換したり言語化したりする活動を通して）実感的（または十分）に感受し、理解している。🔹（知表の評価規準）について、（●●を活用して　例：ＩＣＴ）、（●●する。例：具体例を示す　振り返らせる）などして実感的に味わい理解できるよう支援する。 |
| 技能 | 評価規準を記入 | ○（技能の評価規準）の表現の技能をおおむね身に付けている。◎（技能の評価規準）の表現の技能を身に付け、（●●する活動を通して　例：表現性・表現効果等を生かして効果的に表現を工夫する中で）、技能を更に高めている。🔹（支援の方法を具体的に記入。例：学習活動を振り返らせたり、ＩＣＴを活用して動画や画像を再度確認させたりして、）表現の技能を実感的に捉え表すことができるよう支援する。 |
| 思考・判断・　表現 | 思表 | 評価規準を記入 | 〇（思表の評価規準）について構想・工夫し、おおむね自身の考えを言語化している。◎（思表の評価規準）について深く考えて構想・工夫し、知識を活用して自身の考えを適切に言語化している。🔹（支援の方法を具体的に記入。例：意見交換で他者の捉え方や考え方を参考にしたり、これまでの知識や技能と関連させたりするよう促し、）構想・工夫とその見直し、再構築に取り組めるよう支援する。 |
| 思鑑 | 評価規準を記入 | 〇（思鑑の評価規準）をおおむね味わって捉え、自身の考えを言語化している。◎（思鑑の評価規準前半）について自らの生活と関わらせて考え、（思鑑の評価規準後半）を深く味わって捉え、自らの考えを適切に言語化している。🔹（支援の方法を具体的に記入。例：意見交換で他者の捉え方や考え方を参考にしたり、これまでの知識や技能と関連させたりするよう促し、）書のよさや美しさを捉える活動に取り組めるよう支援する。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 態表 | 評価規準を記入 | 〇（態表の評価規準）に粘り強く取り組もうとしている。◎（態表の評価規準）に、（計画的に自らの学習を調整しながら主体的に）粘り強く取り組もうとしている。🔹（支援の方法を具体的に記入。例：学習した●●の書風や表現効果、自身の取組の経緯を振り返らせ、既得の知識と技能を生かして、●●の書風に即して表現を工夫して）主体的に表現の学習活動に臨めるよう支援する。 |
| 態鑑 | 評価規準を記入 | 〇（態鑑の評価規準）に粘り強く取り組もうとしている。◎（態鑑の評価規準）に主体的に粘り強く取り組むとともに、（生活や社会との関わりや自身の人生とも関わらせて幅広い視野から書を捉えて深く）考えようとしている。🔹（支援の方法を具体的に記入。例：学習した●●の書風や表現効果、自身の取組の経緯、相互鑑賞・意見交換での他者との感じ方や捉え方や考え方を振り返らせ、●●の書風及び自他の作品のよさや美しさを感受し、）主体的に鑑賞の学習活動に臨めるよう支援する。 |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」P.61～63を参考に作成

**（２）―　②　単元における観点別学習状況の評価方法**

**（「Ａ表現」または「Ｂ鑑賞」のみでの単元例（ここでは「Ｂ鑑賞」の例））**

|  |  |
| --- | --- |
| 評価の観点と単元の評価規準 | ○「おおむね満足である」状況（Ｂ）の例◎「十分満足できる」状況（Ａ）の例　🔹「努力を要する」状況（Ｃ）と判断される生徒への手立て |
| 知識 | 知鑑 | 評価規準を記入 | 〇（知鑑の評価規準）ついて、おおむね理解している。◎（知鑑の評価規準）について、（●●する活動を通して　例：相互鑑賞・意見交換したり言語化したりする活動を通して）実感的（または十分）に感受し、理解している。🔹（知表の評価規準）について、（●●を活用して　例：ＩＣＴ）、（●●する。例：具体例を示す　振り返らせる）などして実感的に味わい理解できるよう支援する。 |
| 思考・判断・　表現 | 思鑑 | 評価規準を記入 | 〇（思鑑の評価規準）をおおむね味わって捉え、自身の考えを言語化している。◎（思鑑の評価規準前半）について自らの生活と関わらせて考え、（思鑑の評価規準後半）を深く味わって捉え、自らの考えを適切に言語化している。🔹（支援の方法を具体的に記入。例：意見交換で他者の捉え方や考え方を参考にしたり、これまでの知識や技能と関連させたりするよう促し、）書のよさや美しさを捉える活動に取り組めるよう支援する。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 態鑑 | 評価規準を記入 | 〇（態鑑の評価規準）に粘り強く取り組もうとしている。◎（態鑑の評価規準）に主体的に粘り強く取り組むとともに、（生活や社会との関わりや自身の人生とも関わらせて幅広い視野から書を捉えて深く）考えようとしている。🔹（支援の方法を具体的に記入。例：学習した●●の書風や表現効果、自身の取組の経緯、相互鑑賞・意見交換での他者との感じ方や捉え方や考え方を振り返らせ、●●の書風及び自他の作品のよさや美しさを感受し、）主体的に鑑賞の学習活動に臨めるよう支援する。 |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」P.61～63を参考に作成

※①は複合的な単元を例に示したため、「知識」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」のそれぞれについて、「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」に関わる観点別学習状況の評価方法を示しているが、「Ａ表現」または「Ｂ鑑賞」のどちらか一方のみでの単元の場合は、上記の例の通りとなる。②に、「Ａ表現」または「Ｂ鑑賞」のみでの単元例（ここでは「Ｂ鑑賞」の例）を示した。「参考資料」の例を誤解しないように、注意が必要。

※例として示した語句等は、あくまでもサンプルとして示しているので、こうでなければいけない、こうすることを推奨するといった意図によるものではない。

**（３）観点ごとの実現状況等を見取る（見取ることができる）方法（評価対象と学習活動）**

**ア「知識・技能」**

**（ア）「知識」**

　　　 【知表】・・・（評価対象）ワークシート、活動の様子（意見交換における発言） 等

（学習活動）「観点の確認」「相互鑑賞・意見交換」「構想・工夫の見直し」等

（必要なものを記載）

　　　 【知鑑】・・・（評価対象）ワークシート　活動の様子（意見交換における発言）等

　　　　　　　　　 （学習活動）「鑑賞」「相互鑑賞・意見交換」「観点の確認」等　（必要なものを記載）

　　**（イ）「技能」**

　　　　【技】・・・ （評価対象）作品 等

　　　　　　　　　　（学習活動）「作品制作」等

**イ「思考・判断・表現」**

　　　 【思表】・・・（評価対象）ワークシート、作品 、活動の様子（意見交換における発言、作品制作における取組状況）等

　　　　　　　　　（学習活動）「構想・工夫」「構想・工夫の見直し」等（必要なものを記載）

　　　 【思鑑】・・・（評価対象）ワークシート、活動の様子（意見交換における発言　等） 等

（必要なものを記載）

　　　　　　　　　（学習活動）「鑑賞」「相互鑑賞・意見交換」「自己評価」「単元の学習のまとめ」等

（必要なものを記載）

**ウ「主体的に学習に取り組む態度」**

　　　 【態表】・・・（評価対象）ワークシート、活動の様子（作品制作における取組状況）等

（必要なものを記載）

　　　　　　　　　　（学習活動）「構想・工夫」「作品制作」「構想・工夫の見直し」等

（必要なものを記載）

　　　　【態鑑】・・・（評価対象）活動の様子（意見交換における発言、鑑賞活動における取組状況）、

ワークシート 等

　　　　　　　　　 （学習活動）「鑑賞」「相互鑑賞・意見交換」「自己評価」

「単元の学習のまとめ」等（必要なものを記載）

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」P.56、57およびP.59、60を参考に作成

※ここでは複合的な単元を例に示したため、「知識」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」のそれぞれについて、「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」に関わる観点ごとの実現状況等を見取る方法（評価対象と学習活動）を示しているが、「Ａ表現」または「Ｂ鑑賞」のどちらか一方のみでの単元の場合は、必ずしもこのようにしなければならないわけではない。また、指導する単元の内容に応じて、適宜、評価対象、学習活動を加減する必要がある。

※ここに示した観点ごとの実現状況等を見取る方法（評価対象と学習活動）は、すべての単元に共通するわけではない。

**（４）―　①****本時における学習過程と評価の具体**

**単元〇「　　　　　　　　　」第　　次（　　時間）の学習計画【本時はその　　時間目】**

**（例）単元①「楷書の書風と結構法」第１次（２時間）の学習計画【本時はその１時間目】**

**（複合的な単元の例）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 活動の流れ | 時間 | ねらい・学習活動 | 指導上の留意点 | 評価の方法◎指導に生かす評価●記録に残す評価「観」活動の様子「ワ」ワークシート「作」作品 |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 知表 | 知鑑 | 技 | 思表 | 思鑑 | 態表 | 態鑑 |
| 第１次 | 導入 | 〇分 | （3）の学習活動名と具体的な内容を記入。 | 指導上の留意点と支援の具体的な内容を記入。※ねらい・学習活動と行を揃え呼応させるとわかりやすい。両項目とも、学習活動を通して育成する資質・能力を学習者・指導者の双方が意識しながら取り組めるよう、工夫して記述するよう努める。 |  |  |  |  |  |  |  |
| 展開 | 〇分 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| まとめ | 〇分 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 　　　　◎指導に生かす評価　　　●記録に残す評価 | ◎ | ◎ | ◎● | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 第２次 | 導入 | 〇分 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 展開 | 〇分 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| まとめ | 〇分 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 　　　　◎指導に生かす評価　　　●記録に残す評価 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」P.64～76を参考に作成

**（４）―　②本時における学習過程と評価の具体**

**単元〇「　　　　　　　　　」第　　次（　　時間）の学習計画【本時はその　　時間目】**

**（例）単元②「鑑賞②　地域の碑の鑑賞」第２次（２時間）の学習計画【本時はその２時間目】**

**（「Ａ表現」または「Ｂ鑑賞」のみでの単元例（ここでは「Ｂ鑑賞」の例））**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 活動の流れ | 時間 | ねらい・学習活動 | 指導上の留意点 | 評価の方法◎指導に生かす評価●記録に残す評価「観」活動の様子「ワ」ワークシート「作」作品 |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 知鑑 | 思鑑 | 態鑑 |
| 第１次 | 導入 | 〇分 |  |  |  |  |  |
| 展開 | 〇分 |  |  |  |  |  |
| まとめ | 〇分 |  |  |  |  |  |
| 　　　　◎指導に生かす評価　　　●記録に残す評価 |  |  |  |
| 第２次 | 導入 | 〇分 |  |  |  |  |  |
| 展開 | 〇分 |  |  |  |  |  |
| まとめ | 〇分 |  |  |  |  |  |
| 　　　　◎指導に生かす評価　　　●記録に残す評価 |  |  |  |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」P.64～76を参考に作成

※①は複合的な単元を例に示したため、「知識」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」のそれぞれについて、「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」に関わる評価の観点を示しているが、「Ａ表現」または「Ｂ鑑賞」のどちらか一方のみでの単元の場合は、上記の例の通りとなる。②に、「Ａ表現」または「Ｂ鑑賞」のみでの単元例（ここでは「Ｂ鑑賞」の例）を示した。「参考資料」の例を誤解しないように、注意が必要。

※ここでは、あくまでも例として示したもので、必ずしもこの通り記述しなければならないわけではなく、各都道府県等で示された様式に基づいて記述することになる。

**10　年間指導計画**

　各都道府県等の様式に基づいて作成する。

**11****参考資料・参考文献等**

　・授業で使用する資料、関連データ等

（ワークシート、ルーブリック、評価セッション・パフォーマンスシート、

　　アンケート等の数的資料や分析データ　等）

　・学習指導案を作成するに当たり、引用したり参考にしたりした資料等